5. 資料

5.1　システマティックレビューについて

5.2　用語集

5.3　レビュー文献 書誌事項一覧

5.4　班員・研究協力者一覧

5.5　平成 16 年度班会議一覧

5.1 システマティックレビューについて

研究に関する情報源には一次情報と二次情報があります。一次情報とは、ひとつひとつの研究結果がまとめられたもので、原著論文がそれにあたります。二次情報とは、複数の原著論文をまとめたものあるいは原著論文を中立な立場な者が要約したものなどで、システマティックレビューやメタ分析論文、ガイドライン、2 次情報誌の論文などがあります。多忙な臨床医が効率よくエビデンスの収集をおこなうためには、質の高い二次情報を活用することがポイントとなると考えられます。

システマティックレビューは、系統的総説とも呼ばれます。自分の意見と根拠を交ぜて非系統的な方法で叙述的に書く従来の総説とは違い、科学的客観的な根拠だけを要約して系統的に書かれた論文です。システマティックレビューの方法としては、まず解決したい疑問を明らかにし、解決に役立つエビデンスを収集し、収集したエビデンスを評価し、結論を導き出します。

エビデンスの収集はデータベースを用いた文献検索が主となります。一般に広く使用されている文献データベースとして、

PubMed http://www.ncbi.nlm.nih.gov/entrez/query.fcgi（英語：無料）、

医学中央雑誌 http://www.jamas.gr.jp/（日本語：有料）

などがあります。重要な関連文献を漏れなく収集することが必須であることから、複数の情報源から可能な限り幅広く検索をおこないます。

収集したエビデンスの評価は、通常複数の評価者によっておこなわれます。個々の研究で設定した基準を基に、各々の文献の妥当性を検討し、結論を導く根拠として採用するかどうかについて判断します。そして、妥当と判断された文献に示されているデータや結果を総合的に評価した上で結論を出します。

システマティックレビューはその時点で入手可能な関連情報を集約したものといえることから、レビュー目的が自分の解決したい疑問と一致している場合はとりわけ有用といえます。その一方、文献収集や選択、質の評価など、レビュー実施者に多くの判断が委ねられることから、レビュー自体の妥当性が問題になることもあります。表 5.1-1 で示されるようなチェックポイントを頭に置きながら、レビューを読むことも必要と考えられます。

現代の情報化社会においては、一次情報だけではなく二次情報も刻々と更新あるいは新規に生み出されており、医学研究分野も例外ではありません。システマティックレビューの長所・短所を理解した上で、そこから得られる情報を活用していくことが今後いっそう求められていくことでしょう。

表 5.1-1　総説を読むガイド

結果は妥当か

＜第一の基準＞

○ 総説は、特定された明確な臨床上の疑問を解決しようとしているか

○ 用いた文献の採用基準は適切か

＜第二の基準＞

○ 重要な関連研究が漏れている可能性はないか

○ 採用した臨床研究の妥当性が評価されているか

○ 臨床研究の評価に再現性があるか

○ 結果は研究間で同様か

結果は何か

○ 総合的な結果は何か

○ 結果はどの程度の精度か

結果は自分の患者に診療に役立つか

○ 結果を自分の患者の診療に適用できるだろうか

○ 臨床上重要なアウトカムをすべて考慮したか

○ 治療がもたらす利益は、それがもたらす害と費用に見合うものか

（開原成允：JAMA 医学文献の読み方；2001）

内藤真理子

5.2 用語集

用　語	説　明
抄録	学術文献などの内容を短くまとめた文章（要約）。データベース(Medline)によっては、論文の書誌事項だけではなく抄録も確認することができる。
原著論文	未発表の新事実を含んだ学術研究成果をまとめた論文。
レビュー (review)	総説。過去の複数の研究をまとめて検討したもの。
システマティックレビュー (systematic review)	系統的総説。文献を系統的に収集し、質的な評価をおこなうもの。＊[5.1 システマティック・レビュー]を参照のこと＊
批判的吟味 (critical appraisal)	データの妥当性、報告の完全性、方法と手順、結論、倫理基準の遵守などを評価するために、研究に判断のルールを適用すること。
研究デザイン	研究方法の種類のこと。ランダム化比較試験、症例・対照研究、コホート研究などに分類される。
アウトカム (outcome)	原因に対する曝露または予防的、治療的介入から生じるすべての起こり得る結果。結果として生じてくる変化。
バイアス (bias)	偏り。この存在によって、真実から系統的に異なる結論を導かれる可能性がある。
因果関係	原因が結果を引き起こすという関係。 因果関係を考えるためには、疑わしい原因の結果の２つの要因の間に関連性を認めなければならない。しかし、関連性があるからといって因果関係があるとは限らない。まず、その関連性が真実かどうか、単に人為的なバイアスやランダム変動の結果によるものか判断する必要がある。 偶然や各種のバイアス（選択バイアス、測定バイアスなど）は見かけ上の関連性を生じさせやすい。 これらの問題が無いと考えられる場合、両者に真の関連性が存在するといえる。しかし、その関連性が因果関係であると決定する前に、他
研究の妥当性	ある研究から引き出された推論が、どの程度保証されるかを示す度合。
MEDLINE	医学文献のデータベース。1997年より、インターネット上で「PubMed」として公開されている。1960年代から現在までの1000万件以上の医学・生命科学関連文献を収録している。
MeSH (Medical Subject Headings)	MEDLINEデータベースの収載文献に付与されているキーワード。MEDLINE検索にあたり、MeSHの理解は重要なポイントとなる。

用　語	説　明
Cochrane Library	Cochrane Database of Systematic ReviewsやCochrane Controlled Trials Register、Database of Abstracts of Reviews of Effectiveness、Cochrane Review Methodology Database、コクラン共同計画に関する情報を収録したデータベース。CDやインターネットによって提供され、年4回更新される。
医学中央雑誌	国内医学文献情報のデータベース。1980年代から現在までに国内で発行された医学・歯学・薬学およびその関連領域から収集された30万件以上の文献を収録している。
疫学研究	疫学研究は、疾病のり患をはじめ健康に関する事象の頻度や分布を調査し、その要因を明らかにする科学研究である。疾病の成因を探り、疾病の予防法や治療法の有効性を検証し、又は環境や生活習慣と健康とのかかわりを明らかにするために、疫学研究は欠くことができず、医学の発展や国民の健康の保持増進に多大な役割を果たしている。
観察研究	疫学研究の中で介入、実験、あるいはその他の処置が施されていない研究。自然の成り行きが阻害されないような状況下でおこなわれる。症例・対照研究やコホート研究はこれにあたる。
介入研究	対象者の状態のある側面を意図的に変容させるための研究。予防または治療計画を導入し、仮説上の関連の検証をおこなったりする。臨床試験や無作為化比較試験はこれにあたる。

参考文献

フレッチャー・RH 他著（福井次矢監訳）臨床疫学：EBM 実践のための必須知識
MEDSi（東京）　1999

文部科学省・厚生労働省 疫学研究に関する倫理指針
http://www.mhlw.go.jp/general/seido/kousei/i-kenkyu/sisin2.html
（平成 17 年 3 月 28 日アクセス）

内藤真理子

5.3 班員・研究協力者一覧

班員

花田信弘	国立保健医療科学院　口腔保健部
内藤　徹	福岡歯科大学総合歯科学講座・総合歯科学分野
内藤真理子	名古屋大学大学院医学系研究科予防医学/医学推計・判断学
中山健夫	京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻健康情報学分野
野村義明	鶴見大学歯学部　予防歯科学講座
古市保志	北海道医療大学歯学部・歯科保存学第一講座
宮下裕志	歯内歯周専門室　宮下歯科
湯浅秀道	東海産業医療団中央病院歯科口腔外科

研究協力者

青木　一憲	青木歯科医院
岩田　照禎	サンモール歯科クリニック
小佐野貴識	鶴見大学歯学部学生
落合　宏頼	井上歯科
景山　正登	景山歯科医院
勝村　聖子	鶴見大学歯学部解剖学第二講座
木本　敦	木本歯科
立山　勝利	サンモール歯科クリニック
鶴屋　誠人	つるや歯科
吉田　耕治	産業医科大学・医学部・産婦人科
山倉　久史	山倉歯科医院

5.4 口腔と全身の健康状態に関する文献調査班会議

第１回　平成１６年　４月１７日(土)

場　所：八重洲倶楽部

出席者：花田信弘、野村義明、宮下裕志、湯浅秀道、内藤真理子、小佐野貴識

第２回　平成１６年　６月　５日(土)

場　所：京都タワーホテル

出席者：花田信弘、野村義明、中山健夫、古市保志、湯浅秀道、内藤真理子、小佐野貴識

第３回　平成１６年１１月　６日(土)

場　所：八重洲富士屋ホテル５階「つばきの間」

出席者：花田信弘、野村義明、宮下裕志、内藤　徹、湯浅秀道、内藤真理子、小佐野貴識

第４回　平成１７年　１月　８日(土)

場　所：東京ガーデンパレス

出席者：花田信弘、野村義明、宮下裕志、内藤　徹、湯浅秀道、内藤真理子

財団法人８０２０推進財団

口腔と全身の健康状態に関する
文献調査報告書（Ｉ）

平成17年７月

発行　財団法人８０２０推進財団

東京都千代田区九段北４－１－20　新歯科医師会館
TEL：03－3512－8020　FAX：03－3511－7088